

2021.11/1-11/10 イスラエルチーム体験談 2

■Ms. C.N.

年度の初め11月1日未明に日本を出発し、終末の舞台である欧州（次にチーム派遣が予定されている地）ドイツ、イスラエルの地エルサレムと三カ所を1日のうちに移動する印象的なチームとなりました。

コロナ禍の海外渡航は情報が少なく、当方に集まってくる希少な情報のゆえ、日本にいた意味があり、主の栄光をほめたたえます。

今回イスラエル観光省の特別プログラムでセットアップされた派遣で、イスラエル観光省にも在外大使館にも何度も確認して、保健省入国申請は日本出発24時間前の告知だったのにも関わらず、実際は経由地のドイツ出発24時間前と航空会社から現地語で語られ驚きました。もしやドイツの航空会社の方が乗り継ぎのことを知らなかったとも思えます。

とにかく現場対応で、25名の参加者は事前に英語での申請を練習していたためと、二世代目の若者たちの活躍もあり、経由地で急きょWi-Fi 3台使って、あれよと搭乗時間前30分ほどで申請し終えたのは奇跡的でした。コロナ禍でのメール対応のため、現地でWi-Fi 2台では足りないと言いつつ良かったと思えました。

変化する感染状況次第で、陰性証明は48、72時間以内有効と随時変更、頻発するフライトキャンセルの可能性、三カ国の暫定規定が明日には不明という前人未踏の中、コロナ禍で国境が開かれた「記念すべき最初の日本グループ」としてトラブルなく派遣を終えたのは奇跡に近いことでした。皆さまのお取りなしを感謝申し上げます。

10日間の派遣のために、規定とされていた4回の鼻拭い唾液PCR検査（帰国後の隔離短縮のためも含めると5回）と、ワクチン接種証明提示は必須でした。帰国時、感染者1日三万人超の経由地フランクフルト国際空港のカフェでは、ワクチン接種証明か陰性証明の提示が入店必須でした。

欧州便と乗り継ぎではサージカルマスク着用のEU法律がある一方、感染ピークを過ぎたイスラエルは手指消毒アルコールが目立たないところにあたり、隔離ホテルで補充が切れ3日間そのままだったり、マスク着用の緩さも見せられました。一年八カ月もの間、国境が閉じていた痕跡はあちらこちらにありました。キリストが再臨されるオリブ山にある、セブンアーチズホテルは、チームのトイレ使用のためだけに開けていただいたものの、あちこち埃だらけで開業はまだまだ先という感じでした。



レオン師も英語でトラポーション（ユダヤ人はモーセ五書を1年通読する。毎年この時期は創世記）の解説をされるのはかなり久しぶりのようで、解説が次回に延期になった部分もありました。（楽しみにしているとの声複数あり）。ホテル経営者からは海外渡航者受け入れは始まったばかりと聞きました。

ドイツからイスラエルへのフライト途上で、窓側席が与えられ、個人的に黙示録を全章読むように導かれました。使徒ヨハネが黙示を受けたパトモス島のある地中海上で光の反射が七色に輝いており（写真上）「栄光の輝きを瞬時に反映させるだけの働きで、高ぶる必要が全くない」と語られ、安心して、おことばを受けました。

教会の新年度のみことばは「大いなるわざ」とヨハネ14章12節から語られ「みわざの栄光を帰す」ことと一貫性があることに平安を得「今年度主が本気でみわざをされる」緊張感と期待感が与えられました。

3年ぶりとなったパウロ秋元牧師の今回のイスラエル派遣では、聖会を通して黙示録七章四節からの14万4千人の示しがあり、長老牧師のメッセージもそれぞれ素晴らしいものでした。

初日一日には、聖書デボーション箇所から「6時」、イスラエル入国時に「2時間後」とドイツ語で直接的に語られ、どちらも渋滞時間も含めエルサレム市内に入る時間であることに気づき、天の召命に応答させていただきました。その後、インスタ友で、以前エルサレム教会に行かれていた方と、初めてお電話で話すことができ、主に心から感謝しています。

この派遣をもってすでに「わざ」を始められている主に、喜びを持って全ての栄光を帰します。皆様のお祈りを感謝いたします。

